

大正八年四月—大正九年三月

京都帝國大學發行

京都帝國大學文學部考古學研究報告

第五册

備中津雲貝塚發掘報告……………清野、島田、梅原
肥後轟貝塚發掘報告……………濱田、清野、榊原

京都帝國大學文學部考古學研究報告冊目

第一冊 肥後に於ける裝飾ある古墳及横穴 濱田耕作、梅原末治

著色圖版一葉 玻璃版等四十五葉 地圖一葉 (大正六年發行) 絶版

第二冊 河内國府石器時代遺跡發掘報告 濱田耕作

河内高安及喜志石器時代遺跡調査 梅原末治、島田貞彦

河内國府肥後轟等にて發掘せる人骨に就いて報じ併せて日本石器時代の住民に及ぶ 鈴木文太郎

著色圖版一葉 玻璃版等二十九葉 地圖一葉 (大正七年發行) 絶版

第三冊 九州に於ける裝飾ある古墳 濱田耕作、梅原末治、島田貞彦

彌生式土器形式分類圖聚成(附録)

著色圖版五葉 玻璃版等三十葉 (大正八年發行) 賣價金五圓

第四冊 河内國府石器時代遺跡第二回發掘報告 濱田耕作

河内國府石器時代人骨調査 長谷部言入

著色圖版一葉 玻璃版等二十三葉 (大正九年發行) 賣價金五圓

備中國淺口郡大島村津雲貝塚發掘報告

京都帝國大學文學部助手

同 助教 醫學博士

同 文學部 教務囑托

島田貞彦
清野謙次
梅原末治

備中國淺口郡大島村津雲貝塚人骨報告

京都帝國大學助教醫學博士

清野謙次

肥後國宇土郡轟村宮莊貝塚發掘報告

京都帝國大學教授文學博士

同 文學部 教務囑托

濱田耕作
榊原政職

肥後國宇土郡轟村宮莊貝塚發掘報告

京都帝國大學助教醫學博士

清野謙次

序 言

本報告書に於いて、吾人は備中津雲貝塚並に肥後轟貝塚の發掘調査に關する報告を發表せり。津雲貝塚の發掘はもと醫學博士清野謙次君の計畫せる所なるも、本考古學教室亦た助手島田貞彦君を派し、其の發掘を助けたるのみならず、其の發見遺物の大部分は清野博士より本學に寄贈せられて、敎室諸員の研究調査を経たるを以て、茲に清野博士の起草に係る同貝塚人骨の狀態及附屬遺物に關する報文と共に、島田君其他諸員の筆に成る土器石器等に關する記述を登載することとせり。

轟貝塚の發掘は清野博士と考古學教室の聯合發掘に係るものにして、本敎室よりは余輩の外、敎務囑托神原政職君之に携はり、各分擔して其の報告を作成せり。

此の機會に於いて、清野君は津雲貝塚發掘に際して、同地の松枝惣十郎、服部照次兩君の厚意と、高取輝雄君の援助を得たるもの大なるを感謝し、又島田貞彦、清野泰、岸田宗一君等の協力に向つて深謝するの意を表せんことを請はれたり。又た轟貝塚發掘に際して、余等は同地の金田岩太君夫妻の厚意と、熊本縣史蹟調査員文學士古賀德義、同平野乍、村上格君等の同情と、熊本醫學專門學校敎授醫學博士加藤竹男、岸田宗一、神原政職君等の助力に向つて感謝の意を表す。又た余輩は兩貝塚發見の石器の石質に關して、本學敎授理學博士比企忠及同小川琢治君の鑑定を請ひ、貝類に關しては舊平瀨介館主任黒田徳久米君の示教を煩したり。記して此等諸氏に深く感謝す。

本報告書の寫真中、津雲貝塚のものは笠岡柳生寫真館の撮影に係るもの大部分を占め、島田貞彦君及び岸田宗一君の手に成るものを加ふ。轟貝塚のものは岸田君及び余輩のものを主として使用し、遺物寫真の多數は谷山均、桑名節、兩寫真師の手に成り、地圖は余輩の實測に基きたるものに據る。記して以て其の負ふ所を明にす。

最後に余輩は津雲、轟兩貝塚の發掘並に本報告書出版に關して、清野謙次君が其の費用の全部若しくは一部を負擔寄附せられて、此の事業の成果を見るに至らしめしものあるを特記して其の好意に向つて深大なる感謝を表す。

大正九年三月

京都帝國大學文學部考古學教室に於いて

濱田耕作

備中國淺口郡大島村津雲貝塚發掘報告

第一章 發掘 一

第一節 貝塚發掘の略史 (島田) 一

第二節 貝塚の地形 (島田) 四

第三節 第一回の發掘 (清野) 六

第四節 第二回の發掘 (島田) 七

第五節 第三回の發掘 (清野) 一一

第二章 發見の遺物 一五

第一節 石器及骨角器 (梅原) 一五

第二節 土器の種類及形式 (島田、濱田) 一六

第三節 土器の紋様 (島田、濱田) 二〇

第四節 土器と發見層位 (島田、濱田) 二二

第五節 貝類及獸骨 (梅原) 二五

備中國淺口郡大島村津雲貝塚人骨報告

第一部 人骨の出土状態に就いて……………二九

第一 緒言及骨骼の觀察を基礎とせる日本原住民族研究

に關する余が豫定計畫……………二九

第二 津雲貝塚に於ける人骨出土状態……………三二

(1) 出土地層及埋葬時代に關する考按……………三二

(2) 棺又は槨の存否置石及燔火に關する考説……………三五

(3) 人骨附屬遺物……………四二

(4) 人骨各部の相互的位置及埋葬方位……………五一

肥後國宇土郡轟村宮莊貝塚發掘報告

第一章 發掘……………六五

第一節 貝塚の状態(濱田)……………六五

第二節 發掘の經過(濱田)……………六七

第二章 發掘の遺物……………六九

第一節 石 器(榑原)……………六九

肥後國宇土郡轟村宮莊貝塚人骨報告

第二節 裝飾品(榑原) 七二

第三節 貝類及獸骨(榑原) 七三

第四節 土器(榑原、濱田) 七四

第一部 人骨の出土状態に就いて 八一

(一) 人骨出土地層 八一

(二) 人骨附屬遺物 八三

(三) 人骨各部の相互的位置及人骨埋葬方位 八四

圖版目次

卷首

津雲貝塚及轟貝塚發見裝飾品(著色版)

對本文頁

第 一	津雲貝塚全景(1)南方より遠望 (2)東方より望む	四一六
第 二	津雲貝塚發掘地域圖(濱田、島田)	六一七
第 三	同上發掘人骨分布圖(島田)	六一四、三二
第 四	津雲貝塚發掘人骨(1)第一及第二號(2)第三號	二九一六三
第 五	同上 (1)第四號 (2)第五號	二九一六三
第 六	同上 (1)第六號 (2)第七號 (3)第八號	二九一六三
第 七	同上 (1)第九號 (2)第十號 (3)第十一號	二九一六三
第 八	同上 (1)第十二號 (2)第十三號 (3)第十四號及第十五號	二九一六三
	(9 10) 同上長谷部博士發見石製耳飾	附記
	(7 8) 轟貝塚發見牙製裝飾品	七二、七三
	(6) 同上第三十四號人骨伴出鹿角製耳飾	四八、四九
	(5) 同上 第十一號人骨伴出鹿角製腕飾	四三
	(4) 同上 第二十三號人骨伴出鹿角製弓筈	五〇
	(3) 同上 第二十八號人骨伴出石製小玉	五〇、五一
	(2) 同上 第三號人骨伴出鹿角製腰飾	四九、五〇
	(1) 津雲貝塚第五十三號人骨伴出鹿角製腰飾	四九、五〇

第九	同上	(1)第十九號第廿一號及第廿二號	(2)第十六號	(3)第十七號	二九一六三	
第十	同上	(1)第廿三號	(2)第廿七號	(3)第廿四號	二九一六三	
第十一	同上	(1)第廿四號	(2)第廿五號及第廿六號		二九一六三	
第十二	同上	(1)第廿八號	(2)第二十號	(3)第廿九號	(4)第三十號	二九一六三
第十三	同上	(1)第卅七號	(2)第卅二號	(3)第卅一號及第卅三號		二九一六三
第十四	同上	(1)第卅五號	(2)第卅七號第卅八號及第卅九號	(3)第卅六號		二九一六三
第十五	同上	(1)第卅八號	(2)第四十一號及第四十三號			二九一六三
第十六	同上	(1)第四十號	(2)第四十二號	(3)第四十四號		二九一六三
第十七	同上	(1)第四十九號	(2)第五十一號	(3)第四十七號	(4)第五十二號	二九一六三
第十八	同上	(1)第五十號	(2)第五十三號及第五十四號	(3)第五十八號及第五十四號		二九一六三
第十九	同上	(1)第五十九號	(2)第五十六號	(3)第五十五號		二九一六三
第二十	同上	(1)第六十號	(2)第六十一號			二九一六三
第二十一	同上	(1)第六十二號	(2)第六十三號	(3)第六十五號		二九一六三
第二十二	(1)津雲貝塚發見裝飾品	(2)同上石器及貝輪				一五、一六、四二、四三
第二十三	(1)同上砥石	(2)同上石器及加工鹿角				一六、四二、一五〇
第二十四	津雲貝塚發見土器	(1)第廿六號乳兒人骨入壺	(2)彌生式土器紡錘車及			一六一二二
	貝塚式土器破片					一六一二二

第二十五	津雲貝塚發見貝塚式土器破片	一六一—二二
第二十六	同上	一六一—二二
第二十七	同上	一六一—二二
第二十八	同上	一六一—二二
第二十九	同上	一六一—二二
第三十	同上	一六一—二二
第三十一	同上	一六一—二二
第三十二	同上	一六一—二二
第三十三	同上	一六一—二二
第三十四	轟貝塚全景 (1)南方より望む (2)城山より俯觀	六五、六六
第三十五	同貝塚所在地圖 (濱田)	六五、六六
第三十六	同發見人骨分布圖 (濱田)	六七、六八
第三十七	(1)同貝塚發掘光景 (2)同發見第四號人骨 (3)第六號人骨	八一—八七
第三十八	同發見人骨 (1)第四號 (2)第六號	八一—八七
第三十九	同上 (1)第十七號 (2)第五號 (3)第九號乃至第十四號 (4)第十八號	八一—八七
第四十	(1)轟貝塚發見牙製裝飾品及貝輪 (2)同上石匕及石鏃	六九—七三
第四十一	轟貝塚發見石斧	六九—七三
第四十二	同上各種石器	六九—七三

第四十三	轟貝塚發見土器破片	七四—七九
第四十四	同上	七四—七九
第四十五	同上	七四—七九
第四十六	同上	七四—七九
第四十七	同上	七四—七九
第四十八	同上	七四—七九
第四十九	同上	七四—七九
第五十	同上	七四—七九
第五十一	同上	七四—七九
卷末	津雲貝塚及轟貝塚附近地形圖 (陸地測量部二萬分一地形圖分載)	一—六、六五、六六

挿圖目次

第一圖	津雲貝塚第四區發掘斷面圖 (島田)	八
第二圖	同貝塚階段狀態地形想像圖 (島田)	九
第三圖	同發見土器形式圖 (島田)	二〇、二一
第四圖	同發見角製裝飾品	四三
第五圖	同上	四三
第六圖	同貝輪斷面圖	四四
第七圖	同大串博士發見角製耳飾 (民族卜歴史「三ノ四所載」)	四八
第八圖	長谷部博士發見鹿角製腰飾	四九
第九圖	同發見人骨四肢屈曲分類圖 (清野)	五三、五五
第十圖	同發見土器形式圖 (梅原)	七四、七五

大正九年十月二十五日印刷
大正九年十月二十七日發行

發行者 京都帝國大學

活版印刷人

桂

千代造

京都市柳馬場三條下ル
(似玉堂)

玻璃版印刷人

谷

山均

京都市上京區丸太町西洞院
西入

同

桑

名節

京都市上京區寺町夷川下ル

賣捌所 丸善株式會社

東京 京都 大阪 福岡 仙臺

REPORT
UPON
ARCHÆOLOGICAL RESEARCH
IN THE
DEPARTMENT OF LITERATURE,
KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY

Volume V.]

[1919-1920,

CONTENTS

- The Excavation of the Shell-mound at Tsukumo, a Neolithic Cemetery
in the Province of Bitchû... ..
... .. By Dr. K. Kiyono, S. Shimada & Dr. K. Hamada.
- The Excavation of the Shell-mound at Todoroki in the Province of Higo.
... .. By Dr. K. Kiyono, M. Sakakibara & Dr. Hamada.



PUBLISHED
BY
THE KYOTO IMPERIAL UNIVERSITY

1920